

羽田空港の国際線増便について 皆様の声をお聞きしています



～ 第1フェーズの結果概要と今後の進め方について ～

国土交通省は、関係自治体の協力を得ながら、羽田空港の飛行経路の見直しなど国際線増便のための方策について検討を進めております。皆様のお住まいの地域の周辺でも、今年8月には、高輪区民センター、品川フロントビルキッズ館等において説明会（オープンハウス型）を開催しましたが、年末から年始にかけて再度実施する予定です。

また、空港に比較的近い港南地区の皆様に向けて、去る9月16日、さんぼーと港南区民協働スペースにおいて、情報提供と対話の場として羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第1回）を開催し、17名の方にご参加いただきました。

ここでは第1フェーズ説明会（オープンハウス型）と羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第1回）のご報告、今後の進め方について説明させていただきます。

第1フェーズの結果概要

○第1フェーズ説明会（オープンハウス型）

本年8月に港区において開催された説明会は、羽田空港の国際線増便の必要性や実現方策について、できる限り多くの方に知っていただくとともに、皆様のご意見、ご質問、ご懸念等をできる限り丁寧にお伺いするため、オープンハウス型により開催されました。

説明会で寄せられたご意見は、皆様の関心ごとに着目して整理され、意見要旨案として特設ホームページ「羽田空港のこれから」にて公表されています。

[第1フェーズ説明会（オープンハウス型）開催概要]
場所：高輪区民センター
日時：平成27年8月21日（金）～23日（日）

場所：品川フロントビルキッズ館
日時：平成27年8月27日（木）～29日（土）

○羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第1回）

羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第1回）では、今後の日本の社会や経済が発展するために、成田空港や羽田空港の国際線の需要の伸びに対応が必要であること、特にオリンピック・パラリンピック競技大会を直前に控え、滑走路と飛行経路の見直しを進める必要があることについて国交省から説明があり、その上で、港南地区住民の方々への期待や不安などについてグループに分かれてご議論いただきました。議論の概要は裏面に掲載しています。

羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第1回）に関する終了後のアンケートでは、十分意見を言えたとお答えいただいた方が多かった一方で、ワークショップの参加者を増やすべきとのご意見もありました。

[羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第1回）開催概要]
場所：さんぼーと港南区民協働スペース
日時：平成27年9月16日（水）
19:00～21:00

今後の進め方

国土交通省では、大きく2つの段階（第1フェーズ、第2フェーズ）に分けて検討を進め、平成28年夏までに環境・安全対策や運用方法等を含めた「環境影響に配慮した方策」を策定することとしています。次の第2フェーズでは、様々な課題に対しどのような方策や対策が考えられるのか、その方向性や選択肢等を検討します。

港南地区においては、引き続き説明会（オープンハウス型）や羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第2回）を通じて、双方向の対話を続けてまいります。説明会（オープンハウス型）と羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第2回）の開催日時や場所は、以下のようになっています。

[第2フェーズ説明会（オープンハウス型）開催概要]
場所：品川シーサイド
日時：平成28年1月24日（日）～26日（火）

場所：高輪区民センター
日時：平成28年1月28日（木）～30日（土）
※平日は11:00～17:00、休日は13:00～19:00の開催となっています。

[羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第2回）開催概要]
場所：さんぼーと港南区民協働スペース
日時：平成28年2月8日（月）
19:00～21:00

- ◆羽田空港機能強化の詳細については、特設ホームページ「羽田空港のこれから」をご覧ください。ご意見等はこのホームページからも受け付けております。

【ホームページ】：<http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/> 検索

電話でのご意見窓口：0570-001-160（I P電話からは03-5908-2420）
平日9:30～18:00（土・日・祝休み）

羽田空港国際線増便についての情報提供と対話の場（第1回） では多様な議論が交わされました。その概要をご紹介します。

【国際線増便の必要性について】

■必要性について

- 航空会社の経営を見ると航空需要は供給過多の状態ではないかと思う。増便の必要性が理解できない。
- 成田空港の都心からのアクセスを改善して成田での増便を行えば、羽田空港で増便しなくても対応できるのではないかと。
- 1時間あたりの発着回数が84回ではだめで、90回でなくてはならない理由がわからない。安全性の確保との兼ね合いを考え、都心上空を飛ばさない方がよいと思う。滑走路を増やせばそれで十分だ。
- なぜ1時間あたりの発着回数を90回にしなくてはいけないのか、84回ではだめなのかという理由を明確に示してほしい。
- 日本の将来を考えると社会や経済の活性化が必要だというのは理解できるが、それと国際線の増便とがどうつながるのか納得できるだけの説明がされていない。
- 増便と経済活性化との因果関係が不明確なので詳しく説明してほしい。
- 将来人口が減少するのだから、国内経済の活性化は必要だ。増便によってお金を落としてくれる外国人旅行者が増えることはメリットだと思う。
- 滑走路の新設や空域の返還などの様々な可能性を十分に検討し複数案を比較した上で必要性を示すべきだ。
- 新しく滑走路をつくる検討もしているのなら、期間、スケジュール、予算、発着回数などはどうなるのか明らかにして、都心ルートでなければならぬ理由を説明してほしい。
- 「南風案2」を唯一の検討案のごとく説明されていたが、参加者が入手した「南風案1」をあわせて検討した結果、「南風案1」には賛成できるが、「南風案2」には賛成できない。

■地域への負担

- 国の経済の活性化を理由に、住みやすく人口も増えているこの地域の住民の命と生活が犠牲になるのは納得がいかない。
- たとえ増便の必要性が理解できたとしても、そのために地域住民に犠牲を強いることは難しいと思う。国全体だけでなく、ルート上の住民にとっての必要性やメリットを示す必要がある。
- オリンピック期間だけなどの期間限定ならば容認できても、恒久的というのは受け入れがたい。

【実現方策について】

■騒音・振動

- 騒音が発生することで窓が開けられなくなったり、日常生活に支障が出るのが心配だ。
- 頻繁に騒音がすると健康への影響が心配だ。
- 飛行機の音によって起こる振動の影響が心配だ。
- これまで全く心配していなかった上空からの音の心配をしなくてはならなくなるということに、不安と不満を感じる。
- 既に高速道路などの音に囲まれている状況に加えて上空に飛行機が頻繁に飛ぶことになると、騒音による負担がさらに大きくなるのではないかと不安だ。
- 数値や質の異なる音の事例を示されても実感がわかないので、頻度も踏まえて実際に飛行機が飛んだ状況になるべく近い音を体験したいので、テスト飛行や他の空港の見学などを実施してほしい。
- 実際の騒音がどの程度になるのか実感できないので、同様の状況ある「伊丹空港」や「福岡空港」を視察することを検討したい。
- 他の空港の事例も参考にしながら、騒音対策をしっかりと講じてほしい。

■電波障害

- 電波障害が発生するのではないかと心配だ。

■落下物

- 人口の多い住宅街の上空を飛行するので、飛行機の部品や氷のかたまりなどが落下して事故が起こる危険性が高いのではないかと不安である。
- 飛行時間帯が下校時間にあたるので、子どもたちが落下物による事故に巻き込まれるのが心配だ。
- これまで大きな問題もなく、対策もなされると思うので、個人的には落下物の心配はさほどしていない。

■不動産価値

- 飛行機事故や落下物、騒音の可能性のある地域は危険で暮らしにくいと認識され、不動産価格が下がってしまうのではないかと心配だ。
- 過去の飛行場周辺地域（都心で上空を飛ばす地域）で資産価値がどう変わったかの事例を知らせてほしい。

■飛行機事故

- 人口が密集している都心や、高層マンションが多い住宅街で飛行機事故が起こったら、被害は甚大で、リスクが高すぎると思う。不安な気持ちを理解してほしい。
- たとえ最新の機器で運行制御していても、最終的には人が飛行機をコントロールしているのだから人為的なミスは起こりうると思う。不安感は拭えない。
- 現状でも上空で着陸を待っている飛行機があって墜落の不安を感じている。現状も踏まえ、リスクを十分に考えて計画しているのか疑問だ。
- 飛行機事故の可能性がゼロではないのだから、事故が起きた場合に誰がどう責任を取るのかを明確にしてほしい。

■心理的圧迫感

- 飛行機は巨大な乗り物なので、それが目の前に迫ってくるのは心理的な圧迫感があり怖いと感じる。高層マンションの上層階では特にそう感じるだろう。

【検討の進め方について】

■情報提供

- 様々な案を比較検討した上でベストな案を選んだならば、その検討のプロセスをしっかりと示さないと住民の納得が得られない。
- 都心上空を飛ばさずに増便する案も検討しているのに、ワークショップの場でそれを説明しないのは、意図的に隠しているからではないかを感じる。
- これまでの検討内容や持っている情報を積極的に公開し、メリットとデメリットの両方を示して、偏りがなく公正だと思える情報提供をすることが必要だ。
- 国の経済活性化のためと言われてもそのためにこの地域が犠牲になるという思いがあるので、この地域の住民のためになぜ増便が必要なのか、メリットはなにか、人口が集中した地域にあえて飛行機を飛ばす理由はなにかを具体的に示すべきだ。
- 一般的な話だけでなく、この地域の騒音対策や危険性の回避方策について説明してほしい。
- 計画されている飛行ルートを示した地図で具体的に説明するなどして、住民の意見をより引き出す工夫が必要だ。
- 詳細な地図による説明がなく、参加者が持参した地図をもとに検討を行った。これからは、具体的な空路が分かる詳細な地図を提供されたい。
- ワークショップでの意見を参加していない住民にも広く伝え、出された質問にはしっかりと回答して、住民とのやりとりを継続的に行ってほしい。
- 東京オリンピックが終了したら、航路を現在程度の運行状況に戻し都心上空を飛ばさない案が考えられるのか、一旦この案が通ってしまったら未来永劫続いてしまうのかを教えてください。

■情報の周知

- 住民の意見を聞きたいのならば、ワークショップの開催を周知できるように、告知にかかると手続きのスケジュールを考えてもっと早く日程を知らせる必要がある。
- 住民がワークショップに参加しやすい時間帯を設定するとともに、1回限りではなく複数回実施しないと、十分な住民意見を聞くことはできないと思う。
- 増便が実施されて初めて計画を知ったり、状況の深刻さを感じる住民が出ないために、もっと早い段階から複数の伝達方法を使って、広く住民に情報を知らせてほしい。

■意見の反映

- 計画ありきで住民意見を聞き置くだけならば、ワークショップで話をする意味がない。計画変更の可能性を前提にして話し合いたい。
- 住民の立場に立って考え、話し合いを積み重ねて意見を反映させる進め方をしてほしい。
- 住民からの質問や情報提供に関する要望への対応がなされると国に対する不信感が生まれてしまうので、きちんと返答してほしい。
- 増便によるメリットとデメリットの両方の側面があり意見は分かれると思うので、必要性に関する議論を尽くし、住民意見を整理すべきだ。
- 委託業者である三菱総研の職員がワークショップをリードしていたが、恣意的な結論になることを危惧する。参加者が主体的に進めるか、国土交通省が責任を持って進めるべきだ。

※本意見概要は、事務局が受け取った内容を取りまとめたものです。必ずしもご主張を反映していない場合もあります。当日の参加者のみならず、参加されなかった方におかれましても、重要な意見が漏れているとお感じの方は、ホームページや次の説明会（オープンハウス型）にて是非ご意見をお寄せください。